



社教NFTかわら版

中部教育事務所社会教育だより(NFT=network・footwork・teamwork)

中部教育事務所第12号
平成27年2月23日
主任 社会教育 主事
安部亮太郎・青木 淑江

☆ 中部教育事務所管内の社会教育情報を発信します ☆

特集：日高村に聞く！「地域による学校支援活動」

日高村 文部科学大臣表彰受賞！

昨年12月8日(月)、文部科学省で、日高村の「日高中学校区学校支援地域本部」が『平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰』を受賞しました。

この賞は、全国の中から、地域全体で学校や子供たちの教育活動を支援する活動のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ、贈られるものです。

土曜日の教育活動における活動、学校支援地域本部における活動、放課後子供教室における活動、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)に基づいた活動等、様々な事業を活かした活動だけでなく、その内容も評価され、今回の受賞が決定しました。

日高村では、どのような取組を行い、成果を上げて来たのかについて、紹介します。



受賞した表彰状を、受け取った地域の代表 吉村さんとコーディネーターの杉本さん

日高村の取組紹介

学校支援地域本部事業 土曜日の教育活動「放課後学習室」



土曜日の「放課後学習室」の様子。学校の空き教室を「学習室」として利用しています。

日高村では、平成25年度より、学校支援地域本部事業を活用して、「放課後学習室」を行っています。平日の放課後だけでなく、土曜日の午後にも開催されています。

この学習室は、学校の教員ではなく、コーディネーターの杉本さんを中心に、大学生の学習アドバイザーやALT等によって運営されています。学校を支援するための事業であり、学校への大きな力となっています。

また単なる学習の場だけではなく、日頃の悩みや進路について考える場でもあり、「居場所」としての役割ももっています。

教員や保護者以外の大人が関わってくれることで、生徒たちの「心の安定」や「意欲の向上」に役立っています。

たくさんの地域ボランティアの参加と多彩な活動

ボランティアの「のべ活動参加者数」は929人、「のべ活動日数」は506日。事業開始当初に比べ、飛躍的に伸びてきており、その支援活動のバリエーションも年々増加しているようです。年3回の実行委員会には、地域ボランティアも参加してもらい、意見を取組に反映しています。



植物に関する講師



小学校クラブ活動 茶道



中学校マスコットづくり支援



手話に関する講師



交通安全指導



家庭科支援

放課後子ども教室における活動

日高村では、国や県の事業を活用して、日下小学校と能津小学校で放課後子ども教室を行っています。平日の午後だけでなく、土曜日にも「キャリア教育」をテーマに、様々なことに取り組んでいます。9月には、県の協力をうけ、NPO法人日高わのわの会と「花育」の活動を行いました。同様に12月には、まんが教室、1月には化石掘り体験学習を行いました。



花育体験



化石掘り体験



マンガ教室

日高村担当者に聞く 成功の秘訣は？

○どのような成果が出ていますか？

『今年度、日高中学校3年生の全国学力・学習状況調査の結果がとても良かったと聞いています。学校が、がんばってくれている成果ですが、私たちの取組もこの成果の下支えになっているのではないかと考えています。』

『子どもには、かかわってくれる大人が増え、地域への愛着が育っています。大人にとっては「生きがい」や自身の培ったものを伝承する「自己実現の場」にもなっています。』

『現代の子ども達は、様々な課題を抱えている子が多いと言われています。仮にそうだとした場合、保護者や教員以外の大人がつながり、様々な体験をさせれば、子どもの心は安定し、自尊心や規範意識が育つのではないかと考えています。』

『実際に、地域の子どもと大人のつながりが広がっていて、子どもの方から、挨拶や雑談ができる関係になっています。』



地域の教育力向上のために、情熱をもってがんばってくださっている日高村教育委員会の長尾さん。

○これまでに困ったことは？

『関係者、特に学校に十分理解を促せなかった時代は、困ることもありました。』

『しかし今では、コーディネーターの杉本さんの机が職員室の中にある等、連携もうまくいっています。杉本さんが、コーディネーター、授業の支援員、放課後支援員と「一人三役」を担ってくれているおかげですが、これが実現したのも、学校に理解・協力してもらえたおかげです。』

○意識していることは？

『学校・地域がお互いにメリットのある「WIN&WIN」の関係を大切に考えています。』

『子どもには、してもらっただけでなく、感謝の手紙を書ってもらっています。これにより、コミュニケーション能力や表現力が育ちます。手紙をもらった大人は、「生きがいになっている」「元気をもらっている」「子ども達からもらった手紙をずっと大切に保管しておいて、子どもが大人になった時に渡したい」などの思いをもってくれています。学校支援が一つの「生きがい」になり、地域全体で「村の子どもを育てている」という意識が生まれて来ています。』

『手紙を配る際にも、コーディネーターが直接、地域を訪問し、情報収集を行っています。』

『また連絡体制のマニュアル化など、関係者の共通理解のため、文書も大切にしています。』

○成功の秘訣は？

『成功、完成とはとらえていません。まだまだ課題もありますし、もっと取組を続けていきたいと思えます。』

『県の教育委員会が主催してくれている会をはじめ、様々な研修会にも参加し、他地域の優れた実践を参考にして、これまで取り組んできたように地道に続けていきたいと思っています。他地域の情報も知りたいと思えますので、お気軽に声をかけていただければと思います。』

まとめ 「日高村から学ぶ！」 重要ポイント

①学校の理解 (情報の共有も含め)

長尾さんも杉本さんもこの大切さを語っていました。学校の理解がないと、この事業は進みません。日高村では、「小中学校の管理職の方に事業に対する理解がある」ことが成功のポイントになっています。

②「つながり」をつくるフットワークの軽さと情熱

「直接、人と会って話をしてつながる」「できる人ができることからできるだけやる」ということを大切にしているフットワークの軽さと、「地道な取組とあきらめない持続する情熱」が日高村にはあると感じました。



③事務処理 (情報発信・マニュアル・計画)

関係者の意欲向上・共通理解を図るためにも文書を大切にしています。イベントのお誘い、その後の情報発信も、すばやく文書を作成し発行しています。また関係者が変わってもすぐ共通理解が図れるように計画書やマニュアルを整備しています。



『学校を核とした地域の教育力の向上』

担当より

「一人では、できません。情熱ある人がいてくれるからこそ、実現しています。」これは今回取材した長尾さんの言葉です。しかし私は、様々な話を聞くにつれて情熱をもって仕事を行っている長尾さんや杉本さんのような人がいるから、その輪が広がり、同じ思いをもった人が集まってきているように思いました。

また取組を始めたころは、困難がありながらもあきらめず、地道に取組を進めて来たことが、成功につながっていることも感じました。

地域創生が語られる時代です。**日高村の取組は「こんな地域の教育力のある所で子育てをしたい」と思わせるものでもありました。このような取組を続けている地域とそうでない地域では、その将来が大きく違ってくるようにも感じました。**

最近、遠い沖縄から研修視察団が日高村にやってきたそうです。このような情熱の輪が、中部管内でも更に広がってほしいと思います。

地域の活動情報をお知らせください

中部教育事務所では、生涯を通し学ぶ喜びに満ちた教育的風土づくりを進めるために、各市町村の社会教育委員会やPTA、その他の社会教育諸団体と連携を図りながら支援助言を行っていきます。

また、情報収集に努め社会教育に役立つ情報を発信していきますので地域の活動等情報がありましたらお知らせください。

連絡先: 高知県教育委員会事務局中部教育事務所
TEL 088-893-6166 FAX 088-893-6167
E-mail 310305@ken.pref.kochi.lg.jp
担当: 安部・青木